

平成26年度 事業計画の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成26年度事業の実施方針

- ・東日本大震災から3年が経過し、復興の地域間格差が顕在化する中、文化芸術面での鑑賞機会や学習機会環境を経常的に幅広く提供していく。併せて震災の記憶を後世に残す事業、地域住民の心の拠り所となる事業、被災した人に寄り添う事業についても、引き続き取り組みを継続する。
- ・3年後（平成28年度）の財団設立30周年をひとつの節目ととらえ、「指定管理者制度」や「劇場法」、文化芸術面での震災復興事業などの重要なテーマを踏まえた既存事業の点検・総括、新規事業の開発・試行を進め、26年度の国連防災世界会議、27年度の地下鉄東西線開業、28年度の設立30周年等の各記念事業の準備・開催を進めるとともに、さらにその先の時代を見据えた、新たな事業ラインナップを構築する。
- ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金導入の拡充を進めながら事業体系を充実させていくとともに、職員の意識や資質の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営を継続する。

平成26年度事業の概要（経費／単位千円）

（1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全で快適で使い易い文化施設の提供はもとより、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行う。

また、事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努める。

ア. 施設の貸出・維持管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（342,096）/No. 130
- ・イズミティ21 管理運営（124,766）/No. 131 ※(株)東北共立、(株)石井ビル管理とのグループ
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（62,433）/No. 81
- ・地底の森ミュージアム 管理運営（76,814）/No. 92
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（42,257）/No. 104
- ・仙台文学館 管理運営（173,675）/No. 120
- ・せんだいメディアテーク 管理運営（577,929）/No. 132
- ・せんだい演劇工房10-BOX 管理運営（26,088）/No. 60

イ. 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業（20,868）/No. 24

ウ. ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・イズミティ21市民協働ロビーイベント（400）/No. 44②
- ・仙台国際音楽コンクールボランティア運営（2,610）/No. 56

- ・各ミュージアムボランティア運営 /No. 109 ほか
- ・各ミュージアム 教育／地域との連携事業 /No. 67 ほか

エ. 人材育成

- ・10-BOX夏の学校 (2, 335) /No. 9
- ・せんだい短編戯曲賞 (1, 800) /No. 8
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (20, 737) /No. 59

【せんだい短編戯曲賞】

若手劇作家を育てる戯曲賞の2年度目。前年度に応募のあった作品から大賞作品を選考し、リーディング（朗読）形式で上演。第1回の最終候補10作品をまとめた冊子は発売中。

（2）普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を幅広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・スポンサーやサポーターの裾野を広げる。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集・発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲（1）の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図る。

ア. 鑑賞公演

- ・仙台クラシックフェスティバル2014 (70, 060) /No. 2
- ・杜の都の演劇祭 (2, 500) /No. 10
- ・市制施行125周年記念コンサート (4, 320) /No. 61
- ・れきみん秋祭り (2, 746) /No. 31
- ・ライブ文学館 (3, 184) /No. 38
- ・宝塚歌劇仙台公演 (39, 134) /No. 3
- ・新春いずみ寄席 (3, 100) /No. 5
- ・劇場・音楽堂等活性化事業【小中学校オーケストラ鑑賞会、こまつ座公演等】(119, 566) /No. 42
- ・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】(5, 055) /No. 7、18、19

イ. 展示事業

- ・歴史民俗資料館 特別展「餅・モチ～ハレの食～」(2, 189) /No. 83
- ・地底の森ミュージアム 特別展「狩猟の考古学(仮)」(2, 256) /No. 94
- ・仙台文学館 特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」(3, 985) /No. 122
- ・歴史民俗資料館 企画展 (1, 977) /No. 84～86
- ・地底の森ミュージアム 企画展 (164) /No. 95～97
- ・縄文の森広場 企画展 (70) /No. 106
- ・仙台文学館 企画展 (9, 094) /No. 123～127

ウ. 講座・ワークショップ等

- ・各ミュージアムでの講座・ゼミナール・ワークショップ /No. 64、66 ほか
- ・青年文化手作り楽器ワークショップ (235) /No. 43②
- ・イズミティ 21 ホール見学会 (300) /No. 44③
- ・となりの子育てワークショップ (2, 030) /No. 26

エ. アウトリーチ

- ・有償でのアウトリーチ事業の提供 (2, 136) /No. 21
- ・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 (0) /No. 22 ※実行委員会に加わり事務局を運営

オ. 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5, 258) /No. 49
- ・事業団友の会運営 (3, 395) /No. 50

【仙台クラシックフェスティバル2014】

入場料 1,000 円～2,000 円の 83 公演に加え、地下鉄駅コンサート、街なかでの無料コンサートを開催。今回は、在仙作曲家の合唱劇「銀河鉄道の夜」をソリスト 4 名版に編曲して在仙の音楽家により上演するなど、仙台ならではのオリジナル性を高める。さらにプレ企画として被災地訪問コンサートを実施予定。

【宝塚歌劇宙（そら）組全国ツアー仙台公演】

宝塚歌劇創立 100 周年を記念し、例年より多い 3 日間・6 ステージで人気演目「ベルサイユのばら」を上演する。宙組トップによるアフタートークも予定。

【仙台文学館特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」】

仙台文学館の開館 15 周年を記念し、東北が輩出した不世出の歌人・石川啄木の生涯と作品世界を、貴重な自筆資料や当時を伝える写真で紹介する。歌人である小池光館長が啄木短歌の魅力を語るイベントも併せて開催。

(3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していく中で、長期的継続も視野に作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信していく。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育てていくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を推進する。

ア. 顕彰制度・コンクール等

- ・仙台国際音楽コンクール事業 (49, 648) /No. 52～58
- ・高校演劇東北地区大会 (200) /No. 15
- ・(再掲) せんだい短編戯曲賞 /No. 8
- ・ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への集い (514) /No. 65
- ・土井晩翠顕彰会の支援 (晩翠わかば賞・晩翠あおば賞) (0) /No. 71

イ. プロデュース公演・企画公演・展示事業

- ・オペラ「遠い帆」2014年東京公演 (89, 992) /No. 1
- ・兵庫県立ピッコロ劇団「飛んで孫悟空」仙台公演 (850) /No. 13
- ・アートと歴史のコラボレーション (2, 050) /No. 40
- ・メディアテーク「対話の可能性～記録と想起展(仮)」及び関連事業 (17, 800) /No. 73
- ・メディアテーク館長ゲスト対談シリーズ (1, 500) /No. 34
- ・RE：プロジェクト事業 (1, 742) /No. 28
- ・亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす (2, 920) /No. 29
- ・モノと暮らす (1, 504) /No. 30

ウ. グッズ製作・出版

- ・ミュージアムグッズ開発・販売 (1,784) /No. 41
- ・「3がつ11にちをわすれないためにセンター」報告書出版 (4,000) /No. 79

【オペラ「遠い帆」2014年東京公演】

支倉常長ら慶長遣欧使節を主題として、三善晃作曲・高橋睦郎脚本により制作されたオペラ「遠い帆」の慶長遣欧使節出帆400年記念新演出版の舞台を、次年度は新国立劇場の全面的な協力のもと東京で再演する。

【兵庫県立ピッコロ劇団「飛んで孫悟空」仙台公演】

兵庫県立ピッコロ劇団のファミリー向け作品「飛んで孫悟空」(作/別役実)を入場無料で上演。阪神・淡路大震災から20周年を迎える兵庫県が、ひょうご・東北交流公演として東北の俳優を起用し、上演経費負担のうえ公演を実施する。

【亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす】

市民とアーティストが協働で地域の記憶を掘り起こし記録を作品化するとともに、市民共有財として広く情報発信する。新聞「亜炭香古学」に高齢者の力を集結させながら、亜炭探しピクニックや亜炭かるたの作成など、常に新しいトピックで若い年齢層にも訴求力をもつ内容としていく。

【対話の可能性～記録と想起展(仮)】

東日本大震災後、せんだいメディアテークに開設した「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において市民と協働で集めた様々な記録を活用し、記録者やアーティストなどの参加を得て「震災アーカイブはどのように活かされるのか」をテーマとした展覧会を開催する。また関連企画として有識者をゲストに迎え、鷲田清一館長(臨床哲学者)による公開トークイベントを併せて実施。

(4) 総合、その他

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行う。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続する。

ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告 (792) /No. 90
- ・考古学調査研究・報告の刊行 (186) /No. 99
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査 (332) /No. 102
- ・縄文のまつり調査研究事業 (800) /No. 37

イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集 (1,965) /No. 89
- ・文学資料収集・保管 (3,343) /No. 128
- ・メディアテークライブラリー運営等 (9,692) /No. 133
- ・東日本大震災をめぐる文学作品収集事業 (300) /No. 46
- ・地域文化デジタルライズ (1,500) /No. 75
- ・震災の記録 市民協働アーカイブ事業 (17,956) /No. 62

ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No. 51

公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成26年度 事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

(1)芸術文化振興事業

①ミュージアム等周年記念事業

慶長遣欧使節出帆400周年記念事業

仙台市委嘱によるオペラ「遠い帆」(作曲;三善晃・脚本;高橋睦郎)を再演する。

1	オペラ「遠い帆」2014年東京公演	8/23～24	新国立劇場 中劇場	89,992	89,992	入場料11,992 市負担金47,000 協賛金等15,000 記念事業引当 16,000
<p>支倉常長ら慶長遣欧使節を題材とし1990～1999年に仙台市委嘱により制作・上演され、使節出帆400周年を記念し2013年に仙台で再演された新演出版の舞台を、東京・新国立劇場で上演する。国内外で活躍するソリスト・スタッフとともに、在仙のオーケストラ、児童合唱団、市民合唱団とその指導者、照明や音響などの裏方、演出助手など、これまで楽都・劇都として培ってきた人材が300人以上関わり、総力をあげて芸術性の高い舞台の創造を目指す。</p> <p>作曲:三善晃 脚本:高橋睦郎 総監督:宮田慶子、指揮:佐藤正浩、演出:岩田達宗、出演:小森輝彦、小山陽二郎、金沢平、井上雅人、平野雅世、オペラ「遠い帆」合唱団、NHK仙台少年少女合唱隊、仙台フィルハーモニー管弦楽団 合唱指揮:今井邦男 合唱指導:石川浩、佐藤淳一、千葉敏行</p>						入場者: のべ1,800人

②経常事業

公演事業

2	仙台クラシックフェスティバル2014	10/3～10/5	日立システムズホール仙台 他	70,060	68,060	市負担金 23,000 入場料等 36,550 協賛金 8,510
<p>多くの市民にクラシック音楽を楽しんでいただくとともに「楽都仙台」を内外へ発信することを目的に、「仙台クラシックフェスティバル」を開催する。仙台市等と共催。9回目。</p> <p>東日本大震災後は、仙台が復興に向けて前に進むことをメインのコンセプトとしているが、今回は、新たにプレ企画として、せんくら出演者による被災地訪問コンサートを実施する。</p> <p>ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しむ当初からの基本コンセプトを継承。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で83の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を推奨する。また、地下鉄駅コンサート、平成23年度以降毎回好評を得ている「街なかコンサート」も設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。</p>						入場者: のべ32,000人
3	宝塚歌劇宙組全国ツアー仙台公演	9/13～15	イズミティ21	39,134	52,560	入場料 51,762 広告料 350 その他 448
<p>仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。宝塚歌劇創立100周年を記念し、仙台公演は他地域より多い3日間・6ステージで「ベルサイユのばら」を上演する。宙組トップによるアフタートークも予定。出演者:宙組 朝夏まなど 他</p>						入場者:のべ 8,000人
4	もりのみやこのふれあいコンサート	12/5	日立システムズホール仙台	2,600	2,600	市補助金 2,600
<p>障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場者数が増えている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。</p>						入場者:のべ780 人
5	新春いずみ寄席	1/13	イズミティ21	3,100	2,775	入場料 2,775
<p>商業ベースでは実施が難しい小ホールで落語を身近に提供する事業。昼・夜の2回公演、出演は春風亭小朝ほか。</p>						入場者:のべ758 人

6	日本伝統文化紹介	3月	コンベンションセンター(予定)	1,500	0	
第3回国連防災世界会議に合わせ、日本や仙台の伝統文化・芸術を来訪者に紹介し、相互理解・交流促進・発信を図る。						
7	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,657	0	
放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、文楽公演(負担金各500,000円)と小山実稚恵「音の旅」(負担金無し、年2回)、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai~Tap the FUTURE~の通年ワークショップ(負担金なし)に加え、当年度は菅野潤「演奏生活30周年記念ピアノリサイタル」菅英三子「ハートフルコンサート」、おふいす3〇〇「天使猫」、辻井伸行リサイタル(いずれも負担金なし)等を共催する。						
劇都仙台2014事業						
都市文化を支える芸術として総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、演劇を振興する。 ①クリエイターの育成 ②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ③教育や福祉など他ジャンルとの連携 ④良質な公演の機会の拡大 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など の体系に基づいた各事業を行なう。						
8	劇都仙台登竜門事業 (せんだい短編戯曲賞)	通年	演劇工房10-BOX他	1,800	1,800	市補助金 1,800
演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第二回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考し大賞作品はリーディング(朗読)形式で紹介する。最終候補作品(10作品程度)を冊子化し、併せて次年度の募集を行う。						
9	10-BOX夏の学校	7月~8月	演劇工房10-BOX メディアテーク	2,335	2,335	市補助金 1,200 助成金 1,000 受講料 135
夏期学校のスタイルをとり、演劇の手法を用いて、創造・思考・表現を磨き、視野を広げる集中講座。 ①好奇心と創造のレッスン;広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップと座談会を行う。 ②創作実験アトリエ;既に活躍するクリエイターが対象。主に地元クリエイターを対象とした人材育成事業。「一般公開を前提とするクリエーション」と「非公開を前提とするトライアウト」の2つのアトリエを行う。						
10	杜の都の演劇祭	11月~12月	市内各所(飲食店など)	2,500	1,500	市補助金 1,500
街なかの飲食店などを会場に、戯曲や小説などの名作を、朗読に演出を加えたスタイルで1時間程度の舞台作品とし、飲食物と共に安価で提供。「杜の都の演劇祭プロジェクト」との共催。						
11	舞台スタッフ☆ラボ	1月~2月	演劇工房10-BOX他	737	737	市補助金 597 受講料 140
舞台技術や演出効果の技術及び技能者を養成、育成することを目的に、初心者も参加できる内容で、演劇など舞台公演のための施設、またはそれに適した場(部屋)で実践的な講座やワークショップを行う。						
12	おろしまちBOX	通年	演劇工房10-BOX他	4,470	4,470	市負担金 4,470
せんだい演劇工房10-BOXを拠点に市民と舞台芸術の関わりを深めることを目的としたフォーラムなどを開催する。また、東西線沿線に位置する卸町地区の各種イベント等及び市内外の劇団や制作者と協働し、優れた戯曲や良質な実演芸術の公演を行う。						
13	兵庫県立ピッコロ劇団 『飛んで孫悟空』仙台公演	8月17日	日立システムズホール仙台	850	0	
良質の演劇を市民に届けることを目的に、全国で唯一の県立劇団である兵庫県立ピッコロ劇団のファミリー向け作品『飛んで孫悟空』(作/別役実)を入場無料にて行う。併せて振付家や俳優によるワークショップの実施も予定。本公演は阪神・淡路大震災20周年事業として、また東北地方の俳優を起用するなど「ひょうご・東北交流公演」として兵庫県の経費負担で行われる。(当方負担は会場費程度)						
14	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ、専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催(会場使用料を減免)。						

15	演劇—社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	350	150	県負担金 150
	教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用したワークショップを行う。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発、また課題を解決するためのワークショップも実施。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会と共催し、地区大会等を開催。					対象者:100人
16	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が企画した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行う。					対象者:10人
17	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,812	731	市補助金 667 刊行物販売 64
	ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業の共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売を行う。					
18	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	731	731	市補助金 656 受講料 75
	能楽施設を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化に親しみ理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中遼晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図ってゆく。					対象者:70人
19	市民能楽講座	11/17・12/7	能-BOX 青年文化センター	3,324	3,324	市負担金 2,350 入場料 974
	「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市能楽振興協会との協働により実施。今回は、宝生流の能公演を青年文化センターシアターホールで、講座を能-BOXで行う。					入場者:500人
20	震災の記憶を語り継ぐ(仮)	未定	演劇工房10-BOX他	2,500	2,500	市負担金 2,500
	「国連防災世界会議」が仙台で開催されることを受け、その関連企画として、朗読劇などの舞台公演や「演劇(舞台芸術)と震災」をテーマとしたシンポジウムなどを行う。					入場者:100人 新規
育成・普及事業						
主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供する。						
21	有償事業提供	通年	各学校・地域	2,136	2,276	提供先負担金 2,276
	子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせ、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行う。平成26年度は従来の近隣市町村の学校・公共施設・市内商店街等での実施を予定。					
22	芸術家派遣事業	8月～3月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は2,000万円程度を見込んでいる。また、仙台市の負担金により、研修事業「アウトリーチ・ラボ」を実施する。この研修は、コーディネーター志望者を対象に基本的な心構えやコーディネート能力を養うとともに、アウトリーチ事業に参加しているアーティストを対象に、スキルアップと新たなプログラム開発の契機とするもの。					
23	和太鼓作曲家養成ワークショップ	通年	イズミティ21 他	600	100	受講料 100
	和太鼓は最も人気のある伝統芸能の一つであり関連団体も多い。それぞれが特徴ある活動をしているものの、オリジナリティを出し切れていないという不満がある。その最たるものは独自の楽曲がないという点で、既存の曲を演奏するに止まっていることである。そこで講師を招いて作曲のワークショップを行い創り手への支援を行っていく。26年度は団体の調査、参加の調整、ワークショップ基礎編の実施と、基盤整備に努める。					

市民文化事業への支援事業						
24	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,868	17,967	市補助金 17,967
<p>市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。</p> <p>「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」は助成審査会により資金援助を決定。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設での各種協力などを行う。</p> <p>また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。</p>						支援:約250件 助成:約160件 協力:約20件
創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
25	地下鉄東西線沿線アートプロジェクト	通年	地下鉄東西線沿線	2,614	2,614	市負担金 2,500 受講料等 144
<p>①アートによる地域資源再発見・活用事業;27年度に開通予定となっている地下鉄東西線の駅周辺を、表現の場として活用し、アーティストの発表の場を拡充するとともに、市民が気軽に芸術に親しむ機会を提供する。</p> <p>②仙台フォトコンテスト;地域資源の再発見と市民が写真表現を楽しむことを目的とし、公募写真展や公開審査会等を行う。平成25年度より継続。</p>						
26	ワークショップ「となりの子育て」	通年	のびすく宮城野	2,030	2,030	市負担金 1,000 助成金 1,000 受講料等 30
演劇の手法を用いて結婚・出産・子育てについて対話を重ねながら考えるアウトリーチ・ワークショップ「となりの子育て」を実施する。進行役は演出家の阿部初美氏。						
27	地下鉄駅コンサート	9/27・28 10/4.5	地下鉄駅構内	918	918	市負担金 918
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄駅構内で開催する。						
28	RE:プロジェクト	通年	市内各所	1,742	1,742	市負担金 1,742
市内沿岸部の被災地域において営まれてきた暮らしや固有の文化について、住民からの聞き取りをもとに『RE:プロジェクト通信』を発行する。また、取材の様子を紹介する「記録展」や地域文化を紹介するイベントの開催を通して、市民が地域資源に触れることで震災と向き合う機会を提供する。						
地域文化事業						
市民が仙台・宮城の地域に愛着を深め、この地の文化にますます誇りを持てるよう、生活文化を中心に情報を発信していく事業						
29	亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす	通年	市内各所	2,920	80	受講料 80
アートによる地域資源再発見・活用事業として平成24年度から継続実施。市民とアーティストが協働で地域の記憶を掘り起こし、記録を作品化するとともに、市民共有財として広く情報発信する。当時の証言録取や資料発掘から作品制作を通じて、高齢者の力を社会に活かすとともに、市民の芸術文化活動への参画機会を増やす。						
30	モノと暮らす	通年	市内各所	1,504	50	参加料 50
昭和3年に国立機関として設置された「工芸指導所」について、現在の仙台に残された軌跡を丁寧にたどりながら、今に受け継がれるモノづくりの精神やモノの見方などについて、企画展や連続セミナーの開催をとおして市民と共有し、「モノづくりの街・仙台」としての文化的な側面を認識する機会を創出する。また、現在の仙台におけるモノづくりの活動としてある「仙台・杜の都のクラフトフェア」についても積極的に制作協力を行い、市民がモノづくりを支える場面についての提供も図り、総合的な市民の文化力向上に努める。						
ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。						
31	れきみん秋祭り	10/25、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館他	2,746	50	刊行物販売 50
10-BOXと歴史民俗資料館が共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の9回目。「お神楽」・「田植踊」・「鹿踊」・「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングや手品など、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントを目指す。						参加者:7,000人
32	猿舞座のさるまわし	6月中	榴岡公園 歴史民俗資料館他	30	0	
榴岡公園を会場として山口県岩国市に拠点を置き、全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の6回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気の中で伝統芸と親しむ。						参加者:800人

33	朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」	8/9	榴岡公園 歴史民俗資料館他	30	0	
	朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」を、終戦記念日に近いタイミングで常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝える。					参加者:50人
34	館長ゲスト対談シリーズ	通年	メディアテーク	1,500	0	
	せんだいメディアテーク館長がゲストの人選に関わり、自主事業の「記憶と想起」に関連する対談者とトークをする事業。現在注目の有識者(アーティスト、メディア論、作家、ライター等)をゲストに迎え、展示の内容やコンテンツについて議論を深め、公開トークを行う。また、トークの内容はアーカイブとして記録保存し、後に活用する。					
35	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	300	0	
	メディアテークに寄贈された活版印刷機を使い「レトロ印刷」の技術を伝えるワークショップを行う。デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承し次代に伝えるとともに、貴重な活版の道具類のミニ展示も行う。					
36	体験教室「親子でつくろう古代米」	5~11月	富沢遺跡保存館他	628	130	古代米販売 100 参加料 30
	館に隣接する水田で古代米の栽培を行う。親子での協働作業を通じて、古代の歴史を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とする。また、地域と連携して事業を展開し、地底の森ミュージアムが地域活性化の拠点となることを目指す。今年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行う。					
37	縄文のまつり調査研究事業	通年	縄文の森広場	800	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開する。平成26年度は引き続き縄文の音楽に関する調査を行うとともに、これまで復元製作してきた楽器関連資料を演奏するイベントを行い、本プロジェクトの成果公開と音楽以外の要素をこれから考えていく機会とする。全国に発信する当館の独自事業の一つと位置づける。					
38	ライブ文学館	7/13・未定	宮城野区文化センター他	3,184	1,595	入場料 1,595
	「ライブ文学館」はホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成するもの。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成する。 ①「啄木と音楽の出会い～新井満さんを迎えて」仙台文学館の15周年記念展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」と連動し、第一部で啄木の短歌に曲をつけた作家・新井満の歌と講演、第二部で新井満と啄木ソムリエの山本玲子のトークで構成するステージ。 ②「死者の魂と語らう～京極夏彦を迎えて(仮)」作家京極夏彦による朗読とトークと舞踏のコラボレーション。日本文学史における怪談の系譜や、死者とのコミュニケーションとしての文学の意義について語る。現在活躍する作家の声をじかに楽しむステージ。					
39	仙台文学館まつり	8/17	仙台文学館	220	20	その他 20
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。より文学館に親んでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に併せ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。					
40	アートと歴史のコラボレーション	未定	未定	2,050	50	グッズ販売他 50
	歴史や伝統文化にアートの視点からアプローチし、その魅力をクローズアップする融合型事業。芸術・歴史両面での普及を図る。歴史系ミュージアムと事業課の連携事業。					
41	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,784	2,000	刊行物販売 2,000
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①富沢遺跡保存館グッズ;氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)。また試作段階を経て編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)の販売を開始する。 ②縄文の森広場グッズ;縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発。 ③仙台文学館グッズ;前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、文学館の森をイメージしたグッズを追加制作する。また企画展に合わせて、内容にふさわしいグッズの仕入れ販売も行い、来館者のニーズに応える。 ④メディアテークグッズ;20年度制作木村浩一郎氏とのコラボレーション・グッズ、22年度制作の開館10周年記念グッズ、さらに25年度制作のカネイリとの共同によるオリジナルグッズの開発に続き、新たなオリジナル・グッズを企画制作・販売する。 ⑤れきみんグッズ;昭和4年仙台地図の新規復刻および、昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売。					収益事業 *収支は損益ベース

ホール運営活性化事業

それぞれの施設がより地域に開かれたホールとなるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

42	劇場・音楽堂等活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	119,566	119,566	入場料等 20,110 市負担金 45,400 文化庁補助 49,844 共催者負担金 4,212	
<p>クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支えてきた青年文化センターからの発信事業。文化庁、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。主な事業は下記の通り。</p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7～11月);市内小中学校約220校を音楽専用ホールに招く本格的な鑑賞会</p> <p>②仙台フィルが市民に贈る「オーケストラ・スタンダード」(5月～2月);市民に安らぎと潤いを提供するオーケストラ名曲演奏会のシリーズ。プログラムは「活力」「希望」「愛情」を喚起させ、音楽愛好者以外にも鑑賞しやすいものとし、料金を安価に押さえることで、より多くの市民の来場を促す。</p> <p>③こまつ座公演「きらめく星座」(未定);「劇都」仙台の文化振興策として、ハイレベルな演劇鑑賞機会を市民に安定して継続的に提供する。</p>							
43	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	2,568	268	参加費等 268	
<p>①ガス局共催料理教室(7月・11月・2月);クッキングルームの最新器具であるガスコンロの使用説明を兼ねて利用促進を目的に実施する。</p> <p>②手作り楽器ワークショップ(7月);小学生の親子が楽器を手作りし合奏するワークショップ。自ら作る喜びと仲間と奏でる楽しさを体験してもらう。また、アトリエを会場とすることで、ホール以外の施設を知っていただく機会とする。</p> <p>③ホール見学会(7月);中高生を対象としたホール見学会。バックステージを見学・体験することにより、施設に関心を持ってもらうとともに、舞台芸術への興味と参画意識を高める。</p> <p>④ギャラリー企画(7月・2月);3階ギャラリーをより多くの市民に知っていただき、利用率向上を目指すと共に、ギャラリーの賑わい創出を目的としてギャラリー企画事業を実施する。</p> <p>⑤(仮)フェスティバル事業(7月);「青年文化センター活性化事業」として行って来た事業(上記①～④)を軸に、年に一度のフェスティバルを実施する。</p> <p>⑥その他利用者サービス事業(通年);有料コピーサービス等。</p>							⑥は収益事業
44	イズミティ21 活性化事業	通年	イズミティ21	1,272	10	販売手数料 10	
<p>公募の指定管理者の提案事項を中心に次の事業を行う。</p> <p>①泉中央地区プレイガイド事業(通年);利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、イズミティ21を会場に実施される催し物の入場券を販売する。また、仙台市市民文化事業団主催のチケットも合わせて取り扱いし、仙台クラシックフェスティバルのチケットについては専用端末を用いてチケットを販売する。</p> <p>②市民協働ロビーイベント(年3回);施設の新たなカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用して、地域を拠点に活動するボランティアとの協働で事業を実施する。</p> <p>③ホール見学会(8月上旬 2回公演);普段目にする機会の少ない大ホールの裏側を中心に、音響・照明等の機材の操作体験等の参加型の見学会を実施する。夏休みに開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とする。</p> <p>④ピアノ弾き込みボランティア(年3回程度);大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。</p> <p>⑤市民ギャラリー展示(1回1週間程度);泉区の拠点館として、泉の文化・自然等を紹介する写真展、パネル展を泉区まちづくり推進課等と関連のある地域の団体との協働で実施する。</p> <p>⑥宝塚歌劇仙台公演記念ロビーコンサート(9月 3日間で6回公演);大ホールで開催する宝塚歌劇仙台公演の来場者等を主な対象として、小ホールホワイエにて地元の音楽家が出演する1回30分程度の関連コンサート(開演まえのプレコンサート)を実施する。</p>							①は収益事業

出版及び作品収集事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
45	仙台文学館選書『ズキヘキ詩集』	通年	—	950	194	刊行物販売194
<p>仙台の児童文化運動の草分け的存在でもある詩人、ズキヘキの詩作品を収録。雑誌や本に収録されているもののほかに、未発表のメモや原稿などの作品も収め、巻末には年譜と解説を収録。文学館の選書として出版し後世の人々にその作品の魅力を伝えていくことを目的としている。</p>					新規	
46	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	42	刊行物販売 42
<p>「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、「仙台戯曲賞シリーズ」01～04を継続販売。販売価格は1,000円(税別)。</p>						
47	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	10	35	刊行物販売35
<p>事業団20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」中、井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、20年度末に出版したブックレットの継続販売。社会における文化芸術の有効性をアピールしていく。新書版160ページ・税込価格700円。</p>						
48	東日本大震災をめぐる文学作品収集事業	通年	—	300	0	
<p>24年度から行っている、東日本大震災以後に発表された、新聞歌壇・俳壇・柳壇などに掲載された震災を詠んだ作品、仙台ゆかりの作家たちによる震災関係の文章を収集していく。</p>						

広報事業等

49	広報事業	通年	—	5,258	5,080	市補助金 5,080
<p>文化情報誌『季刊まちりょく』の発行(年4回)を継続。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス想定件数:年70,000件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行う。</p>						
50	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,395	1,500	友の会会費 1,500
<p>市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月刊情報誌『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への優先サービスの提供等(年会費1,000円)。</p>					会員:1,500人	
51	事業団事業全体にかかる調整、評価等	通年	—	4,714	0	
<p>事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。</p>						

(2)コンクール運営事業

仙台国際音楽コンクール事業						
平成28年に開催する第6回仙台国際音楽コンクールの準備を行う。						
52	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	9,117	9,117	市負担金 9,117
<p>コンクール事務局の運営を行う。</p>						
53	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	2,956	2,956	市負担金 2,956
<p>組織委員会、運営委員会等を開催する。</p>						
54	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,286	1,286	市負担金 1,286
<p>第6回コンクール審査委員を確定する。 第6回実施要項を確定する。</p>						
55	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	14,168	14,168	市負担金 14,168
<p>第6回コンクール出場者募集に関する広報活動を行う。 第5回優勝者の副賞に関する広報活動を行う。</p>						

56	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	2,610	2,610	市負担金 2,460 入場料 150
	第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダー会議の開催 ②会場運営サポート;副賞コンサート等の会場運営 ③広報宣伝サポート;ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート;外国語等の勉強会、交流サロンの運営内容検討等 ⑤ホームステイ受入;受入れ制度の検討、意見交換会等 ⑥ボランティアプロジェクトチーム;市民と入賞者の交流イベントの企画運営、市民参加型ボランティア研修の企画運営					
57	第5回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	16,553	16,553	市負担金 14,131 入場料 920 その他 1,502
	第5回コンクール優勝者の副賞として、東京でのリサイタルを開催する。併せて国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行う。また、平成27年度に実施する副賞の準備を行う。					
58	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	2,958	2,958	市負担金 2,958
	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクール入賞者による「学校訪問ミニ・コンサート」を開催する。 ・コンクール入賞者と学生・市民オーケストラの共演の機会を設けることにより、音楽振興と交流を図る。 ・クラシック音楽鑑賞の普及とコンクールのPRを目的に、「街かどコンサートシリーズ」を開催する。 					

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

59	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台 他	20,737	20,737	市負担金 15,388 受講料・入場料等 5,349
	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・演奏会を2回開催する。 団員定員:122人					

(4)演劇系練習施設運営事業

60	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	26,088	26,088	市補助金 19,741 利用料等 6,347
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。					

(5)芸術文化受託事業

(単位;千円)

61	市制施行125周年記念コンサート	7/7	イズミティ21	4,320	4,320	市受託料 4,320
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催される仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第2位の成田達輝さんを迎える。					
62	震災の記録・市民協働アーカイブ事業 (震災等緊急雇用対応事業)	通年	メディアテーク	17,956	17,956	市受託料 17,956
	大震災を受け、復旧、復興に向かう仙台のまち、ひと、動きを、市民、専門家、スタッフが協働して記録・発信し、市民共有の財産として保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①震災以降の仙台地域の状況を写真や映像で記録。②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信。					
63	ミュージアムの魅力発信企画事業 (震災等緊急雇用対応事業)	通年	メディアテーク	11,937	11,937	市受託料11,937
	仙台・宮城ミュージアムアライアンス事業に関する記録や資料を作成するとともに、ミュージアム施設での情報収集を行い、情報サイトでの公開を行う。6年目となる平成26年度は情報誌の発行、参加館同士で行うSMMAミュージアムユニバース、各種の事業部会や研修を行う。					

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位;千円)

仙台文学館普及啓発事業

64	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	701	701	市補助金411 受講料133 販売手数料 157
特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、より深い文学の魅力伝えていく。 ①特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」関連;小池館長と穂村弘(歌人)との対談、佐佐木幸綱(歌人)による講演会、地元歌人による講座、地元演劇人の啄木日記を読む展示室劇場などを実施する。 ②「こども文学館 えほんのひろば かこさとしの世界」関連;市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、絵手紙教室を開催する。 ③特別展「いわむらかずおの世界」関連;関係者による講演会、詩の朗読イベントなどを開催。 ④企画展「大佛次郎・大池唯雄往復書簡展」;作家による講演会、研究者による講座などを開催。 ⑤企画展「井上ひさし資料特集展Vol.4」関連;展示室内でのリーディングイベント、読書会などを実施する。						
65	ことばの祭典— 短歌・俳句・川柳への誘い	6/21	仙台文学館	514	514	市補助金 514
短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。						
66	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,397	2,397	受講料2,397
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。 ①小池光短歌講座;館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催を予定。 ②仙台文学館ゼミナール;近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ5回連続で開催。 ③仙台朗読祭、詩の文学館などリーディングイベント;広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベント。 ④文芸講演会;活躍中の作家による講演会や対談。仙台ゆかりの作家をはじめ、全国規模で活躍する作家による講演なども開催。						
67	教育との連携事業	通年	仙台文学館	60	60	市補助金 60
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また、小中学生向けに常設展示の内容を学ぶためのワークシートを作成する。						
68	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。						
69	文学館報の発行	通年	—	1,279	1,279	市補助金 1,279
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。						
70	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さな子どもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。						
71	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施する。						
72	出版物等の販売	通年	—	250	250	市補助金 36 刊行物販売 214
小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業						
73	対話の可能性 (1)対話のための発信事業	通年	メディアテーク	17,800	17,800	市補助金 5,500 入場料1,100 助成金 11,200
	<p>対話の可能性 ・記録と想起展(仮称) 震災のアーカイブはどのように活かされるのかを主題としアートとの融合を図る展覧会。わすれん!に集められた記録を活用し、わすれん!で活動してきたアーティストが参加する。 ・映画上映 「対話の可能性」そして「記録と想起」というテーマに通ずる映像作品を上映する。また、映像音響ライブラリーと連携し、シアター上映作品とライブラリー所蔵作品を関連付け、映像のパブリック・アーカイブの構築に努めるとともに、市民/利用者により選出された映像資料の紹介など、より積極的な活用機会を探る。 ・情報発信 26年度の事業の記録と共に、仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフィユ」の第七号を発行。</p>					
74	対話の可能性 (2)対話の場づくり協働事業	通年	メディアテーク	3,500	3,500	市補助金2,500 助成金 1,000
	<p>23年度震災後に立ちあげた、治癒、交流、再活性のための「広場」事業を継承し、1階オープンスクエアのほか、7階スタジオも活用しながら、人が集い語ることのできる場をつくる。 ・考えるテーブル 市民自らが対話・交流する機会づくりに取り組む。誰もが参加可能な公開会議でもあり、市民の主体的な社会参加を文化面から活性化していく場となる。てつがくカフェ、こけし、かだる?、民話 ゆうわ座、など。 ・スタジオ情報交流 年間を通じ、市民や市民グループと協働し活動の成果をスタジオラウンジで展示したり、報告書などを作成することにより市民への周知と理解を深めるとともに、さらなる市民団体の誘致をはかるしかけを作る。また、1年間の活動の成果として「としょかん・メディアテークフェスティバル」を開催し、活動の様子や成果を広く発信する。</p>					
75	地域文化メディア活性 (1)地域文化デジタルイズ	通年	メディアテーク	1,500	1,500	市補助金 1,500
	<p>地域の生活文化資料を市民協働により編集・発信する。市民ディレクターによって制作された映像を、ケーブルテレビやウェブサイトで発信する「ことりTV」、地域の民話を40年以上にわたって集めているみやぎ民話の会の記録をデジタル化し、広く公開する「民話 声の図書室」、古い写真や映像資料を公開展示をしながら来場者に情報を募り、コレクションする「どこコレ?ーおしえてください昭和のセンダイ」、大橋周辺の地域の文化資源の記録・調査を通じたまちづくりに取り組む「おおはしアラウンド」など。</p>					
76	地域メディア文化活性 (2)バリアフリーデザイン	通年	メディアテーク	900	900	市補助金 800 助成金100
	<p>社会の中のさまざまな「バリア」に目を向け、課題を共有していくための取り組みをおこなう。目や耳の不自由な方に限らず、あらゆる人々が、メディアテークを通じて多様な活動に参加できる環境を提供すること目指し、音声解説・日本語字幕・託児つき上映、手ではなすおはなしの会、要約筆記サービスなどを実施する。</p>					
77	館長発信事業	通年	メディアテーク	922	922	市補助金 922
	<p>さまざまな分野で活動する人をゲストに招き、ゲストの活動を紹介をしながら、震災後の仙台、東北から今考えるべきこと、発信すべきことを共に考える対談シリーズ。対談は原則非公開で映像で記録することとし、映像記録はDVD化、映像音響ライブラリーで公開する等、一般に公開する。またプレゼンターがそれぞれに好きな映画をアドリブで紹介しあい、誰が会場の関心を一番集めるかを競う「シネバトル」も行う。館長はオブザーバーや司会として参加。</p>					
78	施設活用推進・地域文化連携事業	通年	メディアテーク	3,937	3,937	市補助金 3,237 刊行物等販売 500 助成金 200
	<p>・施設活用推進 各種団体との協働やネットワークを通じ、地域におけるメディアテークの役割を担うとともに、来館者調査などの事業評価、次年度の企画準備による、さらなる価値向上に努める。 ・地域文化連携 仙台建築都市学生会議、仙台短篇映画祭実行委員会など、Book!Book!Sendaiなど、主体的に活動する市民グループとの対話を通じて地域訴求力の高い協働事業を行う。事業展開は、スタジオ、シアター、ギャラリー、オープンスクエアや外部との連携を通じた街なかなど多岐に渡り、多くの参加者を巻き込んでいく。</p>					

79	重点政策事業 わすれん！ 報告書出版	通年	メディアテーク	4,000	4,000	市補助金 4,000
	23年度より取り組んできた、東日本大震災の記録・市民協働アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動記録と、アーカイブ、アート、人類学など多様な分野の専門家による論考をまとめた書籍を出版する(国内出版社より発行)。また、出版の一部を英語に翻訳・発行し、第3回国連防災世界会議に参加する海外からの関係者にも配布することで、「わすれん！」で得られた知見を広く国内外に発信する。					
80	重点政策事業 卒業設計日本一決定戦 国連防災会議賞	通年	メディアテーク	550	550	市補助金 550
	国連防災会議にあわせて、卒業設計日本一決定戦の中で「国連防災賞」や「国連特別賞」を設け、優れた作品に授与する。また、学生会議の活動などを広く紹介するため、多言語に翻訳したリーフレットの作成・配布や、プレゼンテーションのボードや受賞した模型写真などの情報展示を行う。					

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

81	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,433	62,433	市指定管理料 59,863
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。					
82	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	394	394	市指定管理料 383
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。					

特別展・企画展及び関連事業

83	特別展「餅・モチ～ハレの食～」及び関連事業	11/15～4/12	歴史民俗資料館	2,189	2,189	市指定管理料 2,189
	おめでたい時や暮らしの節目などハレの日の食材となることが多い、食品である餅(もち)や作物である糯(もち)から作る赤飯などに注目しつつ、多様なハレの日の食の様子を紹介し、全国的な食文化の中で仙台とその周辺で伝統的に見られるハレの食文化の特異性あるいは普遍性について考える。					
84	企画展「戦争と庶民の暮らし4」及び関連事業	6/28～11/3	歴史民俗資料館	1,552	1,552	市指定管理料 1,552
	仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて考えていく。具体的には、戊辰戦争から、日中戦争、アジア太平洋戦争、米軍占領期頃までに関する実物資料を通して、戦前・戦中・戦後の移り変わりを振り返る。また会期中には軍事郵便、戦時期の雑誌などのテーマ展示を開催し、戦時資料の収集活動の成果を広く公開し、普及活動に役立てることをめざす。					
85	企画展「運ぶ ～背負う・担ぐ・提げる～」及び関連事業	4/26～6/15	歴史民俗資料館	259	259	市指定管理料 259
	さまざまな運搬方法や、数多くある運搬具の中から、地域の人々が人力や畜力を使って物を運んだ道具を展示し、人々の知恵と工夫を紹介する。					
86	企画展「仙台絵ハガキ時間旅行」及び関連事業	7/19～9/28	歴史民俗資料館	166	166	市指定管理料 166
	仙台七夕まつり、青葉まつり、仙台駅前、東一番丁、県庁、市役所、仙台城跡周辺等の仙台名所、松島など、絵はがきに見る今昔を訪ね、明治時代以降から現代にいたる暮らしと街並みの移り変わりを振り返る。					

87	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	90	90	市指定管理料 90
	<p>①資料館サポーター講座(6月～3月);「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで上・下半期の2回コースで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(8月・3月);おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/26・27・29、5/3～6);なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み);クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月);展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/18);家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>					
88	資料館だより等の印刷、広報等	通年	歴史民俗資料館	168	168	市指定管理料 168
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習に資する。					
89	歴史民俗資料館 資料の収集保管	通年	歴史民俗資料館	1,965	1,965	市指定管理料 1,965
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。					
90	歴史民俗にかかる調査研究と報告	通年	歴史民俗資料館	792	792	市指定管理料792
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。					
91	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校年生社会科の学習の際、年間100校を超える学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。					

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

92	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	76,814	76,814	市指定管理料 76,814
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。					
93	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,483	13,483	市指定管理料 13,483
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の屋外展示を総合的に行う。					
特別展・企画展						
94	特別企画展「狩猟の考古学」(仮)	7/11～9/15	富沢遺跡保存館	2,256	2,256	市指定管理料 2,256
	人類の生存・進化にとって、狩猟方法・狩猟具の開発は欠かすことのできないものであり、人類の歴史を語る上で重要な要素である。本企画展では、狩猟が生活の大きなウェイトを占めていた旧石器時代から弥生時代にかけての狩猟方法・狩猟具について紹介し、食糧獲得のための歴史的な背景にせまる。					
95	企画展「仙台の遺跡③ 焼きものの一大産地」	4/11～6/22	富沢遺跡保存館	51	51	市指定管理料 51
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。本企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は仙台市北部の台原から小田原あたりで発見されている窯跡を取り上げ、出土資料とともに紹介する。					
96	企画展「遺跡と自然環境」(仮)	10/10～12/21	富沢遺跡保存館	92	92	市指定管理料 92
	富沢遺跡と歴史的に興味深い関連のある仙台市内の遺跡について、富沢遺跡で発見された氷河期の森と旧石器時代の遺構のように、先史時代の遺跡と当時の環境、そこで営まれた人間活動を、どのように明らかにしてきたかという自然科学的調査・研究の成果を交えながら紹介する。					
97	企画展「地底の森ミュージアム2014」	1/20～3/15	富沢遺跡保存館	21	21	市指定管理料 21
	富沢遺跡保存館で行われた平成26年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等を紹介する。					
98	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	606	606	市指定管理料 606
	<p>①考古学講座(11/22、1/17); 考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する。各回公募による60名の一般市民を対象とし2回シリーズで実施する。</p> <p>②体験学習(通年); 体験を通して古代人の技術を学ぶ。石器づくり体験教室や石器の使用体験を実施する(親子体験教室:1回、一般対象教室:1回)。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中に手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施する。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年); 館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会する。原則として毎月2回日曜日に開催。</p> <p>④館長講座: 一般を対象に、その都度テーマを設定し、講座や見学会を実施する。原則として毎月1回日曜日に開催。</p> <p>⑤地底の森フェスタ2014(10/26); 屋外を会場とし自由参加の形態で実施する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティアとともに企画実施。</p> <p>⑥利用学習事業(通年); 小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として保存館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践集録を作成・Web公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑦市民文化財研究員育成(通年); 考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による15名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめる。</p> <p>⑧ボランティア育成(通年); 市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑨地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年); 博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援する。</p> <p>⑩地域や大学との連携; 地域のイベントである太白区民まつりなどに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p>					

99	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	186	186	市指定管理料 186
富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。						
100	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,423	1,423	市指定管理料 1,423
4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。						
101	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
仙台市教育委員会でも所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。						
102	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	332	332	市指定管理料 332
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。						
103	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	188	188	市指定管理料 188
平成27年度の特別企画展に向けての資料調査及び出展交渉を行う。平成27年度のその他の企画展、体験教室等についても資料調査等を行う。						

(3) 仙台縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

104	仙台縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	42,257	42,257	市指定管理料 42,257
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						
105	仙台縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	15,873	15,873	市指定管理料 15,873
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
106	企画展「縄文人と動物のかかわり」	通年	縄文の森広場	70	70	市指定管理料70
<p>県内の遺跡の調査から明らかとなった縄文時代の人々が動物とどのように関わり暮らしてきたのか、最新の成果を含めて紹介する。3カ月毎に主たる紹介遺跡を変えて企画展示を行う。以下の内容を予定。</p> <p>①「縄文人と動物―大野田遺跡と土偶」4/18～6/29 ②(仮称)「縄文人と動物のかかわり―山と川の狩り」7/18～9/21 ③(仮称)「縄文人と動物のかかわり―遺跡から見つかった動物の骨など」10/17～12/21 ④(仮称)「縄文人と動物のかかわり―狩や漁などの縄文人の四季」1/23～3/22</p>						
講座等						
107	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/20・26、11/1、2/7・14・21	縄文の森広場	941	941	市指定管理料 941
季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地元住民による演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施。						
108	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,131	2,131	市指定管理料 2,131
<p>①団体予約：子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験：来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座：「週末体験講座」をはじめとした土器づくり・石器づくりや発掘体験などの各種体験教室。 ④特別イベント：各季節の長期休業期間にあわせて誰でも楽しめる体験イベント等。</p>						
109	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	207	207	市指定管理料 207
各種体験活動について指導や展示説明を補助するボランティアスタッフを対象とした、より分かりやすい説明や体験活動の補助を行ってもらうための研修事業。当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。						

110	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	140	140	市指定管理料 140
<p>縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容を予定。 ①(仮称)「縄文人と動物の関わりあいについて」(12/14) ②(仮称)「日本人と動物との関係」(1/18) ③(仮称)「東日本の狩猟文化」(2/15)</p>						
学校との連携事業						
111	利用学習事業	通年	縄文の森広場	1,278	1,278	市指定管理料 1,278
<p>小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行う。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。</p>						
112	学校教育との連携	8・10～12月	縄文の森広場	8	8	市指定管理料 8
<p>学校教育との連携を促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会を実施。10～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。</p>						
地域との連携事業						
113	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
<p>縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席していただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。</p>						
114	縄文の森広場子ども友の会の育成	通年	縄文の森広場	11	11	市指定管理料 11
<p>実生からの育苗や植樹等を行い、縄文の森の植生を育てるなどの活動を行う。また、縄文時代に関する生活体験やお話会を行う。</p>						
調査研究事業						
115	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	63	63	市指定管理料 63
<p>各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。</p>						
116	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。あわせて、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。</p>						
117	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施。</p>						
118	平成27年度ミニ企画展「(仮称)縄文人の生活」資料調査	通年	縄文の森広場	37	37	市指定管理料 37
<p>縄文人の生活をテーマとした展示を予定している、平成27年度の企画展の内容および展示と連動した体験活動を検討するために資料調査を実施。</p>						
119	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連資料の収集を行う。</p>						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

120	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	173,675	173,675	市指定管理料 173,675
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む
121	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					
特別展・企画展						
122	特別展「石川啄木の世界～うたの原郷をたずねて」	4/26～6/29	仙台文学館	3,985	3,985	市指定管理料 3,985
	2012年に没後100年を迎えた石川啄木。その作品はいまもって人々に受け継がれ、新鮮な感動を呼び起こす。この展示では、石川啄木記念館、日本近代文学館などに協力を仰ぎ、その短くも濃密な生涯と、鮮烈な文学世界を貴重な自筆資料からたどる。					
123	夏休み企画「こども文学館えほんのひろば～かこさとしの世界 おはなし・かがく・あそび」	7/17～8/24	仙台文学館	1,390	1,390	市指定管理料1,390
	夏休み恒例の企画として、絵本を自由に読める「絵本の部屋」や、市内で活動するグループによるお話会・読み聞かせワークショップ等を開催する。また、3Fの企画展示室では「だるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」などの作品で知られる、かこさとしの絵本の世界を展示。科学者でもある作者の「かがく」や「あそび」をテーマにした作品も紹介し、物語と想像の世界を楽しんでもらう。					
124	特別展「いわむらかずお絵本原画展」	9/6～11/3	仙台文学館	4,977	4,977	市指定管理料4977
	「14ひきのねずみ」のシリーズで知られる絵本作家・いわむらかずおの原画展を開催。自然と生き物の姿を描いた原画にこめられた、命への優しく暖かなまなざしを紹介。国内のみならず海外でも翻訳され、愛読されている世界的な人気絵本の原画に親しみ、物語の世界の深さと楽しさを多くの世代の人たちに味わってもらおう展示とする。					
125	企画展「大佛次郎・大池唯雄往復書簡展」	11/22～1/25	仙台文学館	1,018	1,018	市指定管理料 1,018
	当館で所蔵している、大佛次郎が大池唯雄に宛てた書簡60点は、大佛次郎全集等にも未収録の、未公開資料である。無名の作家大池を励まし、時に厳しく批評するこれらの書簡からは、二人の人間的交友の深さが伝わってくる。大佛次郎記念館の協力を仰ぎ、大佛・大池の往復書簡の展示と、二人の作家の足跡、そして当時の時代背景などを紹介する展示とする。また、書簡の内容を活字にした展示図録も作成する。					
126	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/11	仙台文学館	277	277	市指定管理料 277
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
127	企画展「井上ひさし資料特集展vol.4」	2/7～4/19	仙台文学館	1,432	1,432	市指定管理料1,432
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示。膨大な創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどる。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介。					
128	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,343	3,343	市指定管理料 3,343
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理をおこなう。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。					
129	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	482	482	市指定管理料482
	平成26年春の特別展の準備を進める。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介していく。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

130	仙台市青年文化センター管理運営	通年	青年文化センター	342,096	342,096	市指定管理料 342,096
<p>平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その3年目に当たる26年度は次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化する。</p> <p>(2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指す。</p> <p>(3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化する。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の利用促進につながる施設紹介事業を行う。</p> <p>①ホール見学会 ②親子対象の手作り楽器ワークショップ ③ガス局との共催による料理教室 ④展示スペースとロビーを活用したギャラリー企画 ⑤(仮)フェスティバル事業 など</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行う。</p> <p>(6)震災を教訓にしたより実践的に対処できる防災体制を構築し、環境に配慮した各種施策に努める。</p> <p>(7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともに進行。</p>						収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

131	仙台市泉文化創造センター(イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	124,766	124,766	市指定管理料 124,766
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成22年度から5年間の指定管理を受け、市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指している。施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行って行く。また、施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制を整備し、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。一方、イズミティ21を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリーでの展示、宝塚歌劇仙台公演に連動したロビーコンサート、新春寄席を行う。</p>						収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

132	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	577,929	577,929	市指定管理料 577,929
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通りに面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努める。特に26年度は27年3月に開催される国連防災世界会議における展示会場の一つとなっており、様々な行事が行われることから、関係部署との連携を密にし修繕及び点検に力を入れていく。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援も行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。</p> <p>事業としては、震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進める。</p> <p>また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り、次世代の育成に取り組む。</p>						収益事業を含む
133	せんだいメディアテークライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,692	9,692	市指定管理料 9,692
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリー、における映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。</p>						